

平成 2 4 年 6 月 2 1 日

平成 2 3 年中における山岳遭難の概況

警察庁生活安全局地域課

1 概要

(1) 全国の発生状況

平成23年中の山岳遭難は

○ 発生件数 1,830件 (前年対比 - 112件)

○ 遭難者数 2,204人 (前年対比 - 192人)

うち死者・行方不明者

275人 (前年対比 - 19人)

負傷者 819人 (前年対比 - 13人)

無事救助 1,110人 (前年対比 - 160人)

であり、発生件数、遭難者数は、前年に次いで過去2番目に高い数字を示した。

このうち、40歳以上の者は、

○ 遭難者数 1,696人 (前年対比 - 125人)

うち死者・行方不明者

251人 (前年対比 - 14人)

負傷者 671人 (前年対比 - 6人)

無事救助 774人 (前年対比 - 105人)

であった。

過去10年間の山岳遭難発生状況をみると増加傾向にあり、平成14年と比較すると

○ 発生件数 +482件 (+35.8%)

○ 遭難者数 +573人 (+35.1%)

となっている。

(2) 都道府県別山岳遭難発生状況

遭難発生件数を都道府県別に見ると

○ 長野県 227件

○ 北海道 138件

○ 富山県 116件

の順であった。

2 山岳遭難の特徴と未然防止対策

(1) 目的別・態様別

山岳遭難を目的別にみると、登山(ハイキング、スキー登山、沢登り、岩登りを含む)、山菜・茸取りが多く全体の90.3%を占めている。また、態様別にみると、道迷い、滑落、転倒が多く全体の72.6%を占めている。

(2) 年齢層別

60歳以上の遭難者は1,118人で全遭難者の50.7%を占めている。

(3) 単独登山者

単独登山における死者・行方不明者は154人で、全単独遭難者の20.2%を占めており、複数(2人以上)登山者における死者・行方不明者の割合(8.3%)と比較すると約2.4倍となっている。

(4) 遭難件数に占める通信手段

全遭難件数の64.5%が遭難現場から通信手段(携帯電話、無線(アマチュア無線を含む。))を使用し、救助を要請している。

今後も、携帯電話による救助要請が増加することが予想されるが、携帯電話は通話エリア内での万が一の通話手段としては有効であるが、多くの山岳では通話エリアが限られることやバッテリーの残量に注意が必要である。

(5) 未然防止対策

山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足等から発生していることから、遭難を未然に防ぐため、登山に当たっては、以下のような点に留意が必要である。

- 登山計画の作成、提出

気象条件、装備、食料、体力、体調、登山の経験と山岳の選び方、登山コース、日程等に配慮して、余裕のある、安全な登山計画をたてる。

単独登山はできるだけ避け、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努める。

また、作成した登山計画書は、家庭や職場、登山口の登山届ポストなどに提出しておく。

- 危険箇所の把握

計画を立てるとき、滑落等の危険箇所を事前によく調べる。

- 状況の的確な判断

視界不良・体調不良時等には、滑落、道迷い等のおそれがあることから、状況を的確に判断して早めに登山を中止するよう努める。

- 滑落・転落防止

滑りにくい登山靴等の着用、ストック等の装備を有効に使用するとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心がける。

- 道迷い防止

地図とコンパス等を有効に活用して、常に、自分の位置を確認するよう心掛ける。

3 トピック

平成24年5月4日から5日にかけて、北アルプスにおいて遭難事故が相次ぎ、計8人が死亡しました。

過去5年(平成19年から平成23年)の山岳遭難統計を分析したところ、全遭難者のうち、60歳以上の遭難者が全体の約5割を占めるなど、他の年齢層と比較

して特に多いことが分かりました。その中でも死者・行方不明者については、全体の約7割がこの年齢層に当てはまります。

60歳以上の遭難者が多い理由として、

- 近年の登山ブームを反映し、中高年層の登山の機会が増えた
- 体力の衰え等に伴い、天候の急激な変化等、各種トラブルへの対応能力が相対的に低下している

等が考えられます。

安全な登山のため、慎重な登山計画と適切な判断が求められます。

表1 概要

			平成23年		平成22年		増減	
			総数	うち中高年	総数	うち中高年	総数	うち中高年
発生件数(件)			1,830		1,942		- 112	
遭難者 (人)	死者・不明者	死者	244	223	262	238	- 18	- 15
		行方不明者	31	28	32	27	- 1	+ 1
		小計	275	251	294	265	- 19	- 14
	負傷者		819	671	832	677	- 13	- 6
	無事救出		1,110	774	1,270	879	- 160	- 105
	合計		2,204	1,696	2,396	1,821	- 192	- 125

注: 中高年とは、40歳以上の者を内数で示す。

表2 過去10年間の山岳遭難発生状況

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
発生件数(件)	1,348	1,358	1,321	1,382	1,417	1,484	1,631	1,676	1,942	1,830
遭難者数	1,631	1,666	1,609	1,684	1,853	1,808	1,933	2,085	2,396	2,204
うち中高年	1,223	1,298	1,309	1,372	1,507	1,439	1,567	1,602	1,821	1,696
死者・不明者	242	230	267	273	278	259	281	317	294	275
うち中高年	219	213	249	244	251	237	256	284	265	251

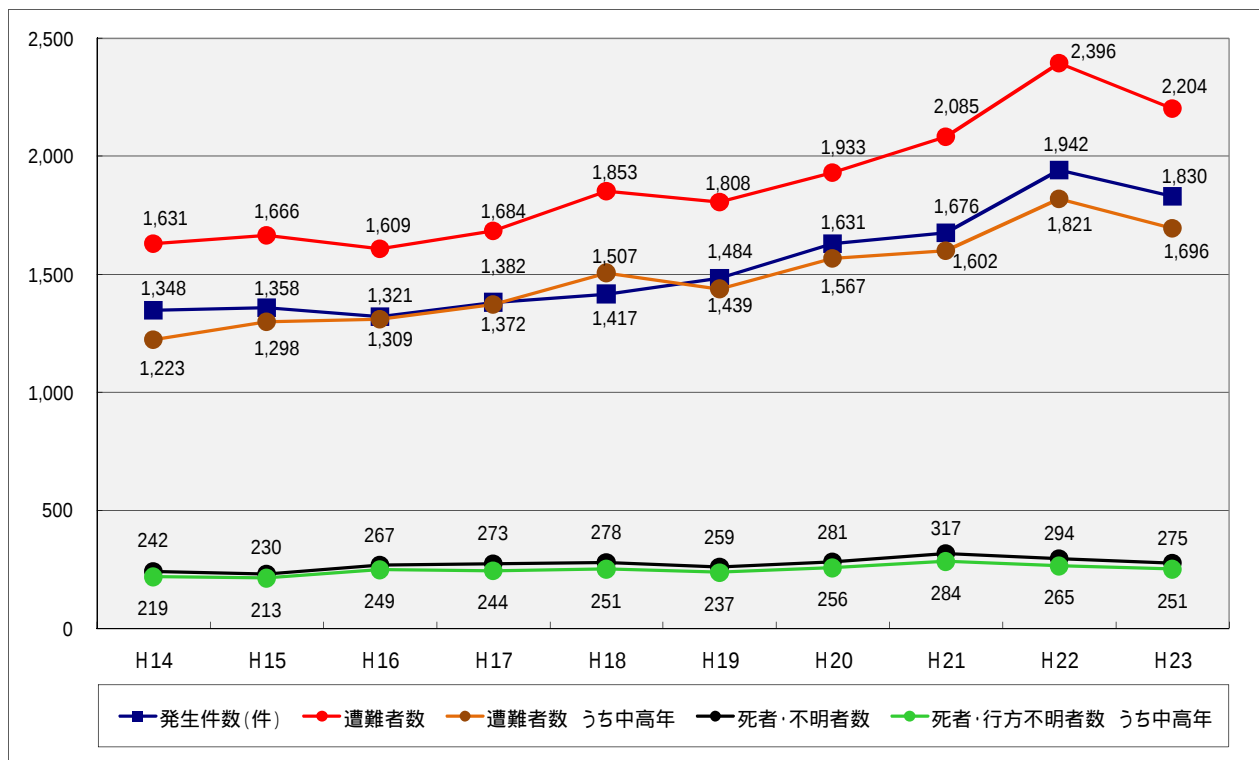


表3 60歳以上の遭難者数(過去5年)

	H19	H20	H21	H22	H23
遭難者数	1,808	1,933	2,085	2,396	2,204
うち60歳以上	871	1,005	1,040	1,199	1,118
(%)	48.2%	52.0%	49.9%	50.0%	50.7%

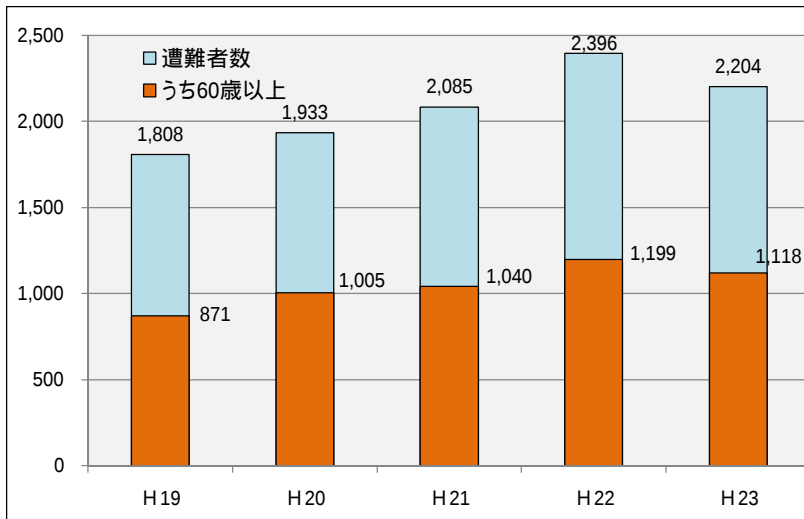


表4 60歳以上の死者・行方不明者数(過去5年)

	H19	H20	H21	H22	H23
死者・行方不明者	259	281	317	294	275
うち60歳以上	163	174	197	194	190
(%)	62.9%	61.9%	62.1%	66.0%	69.1%

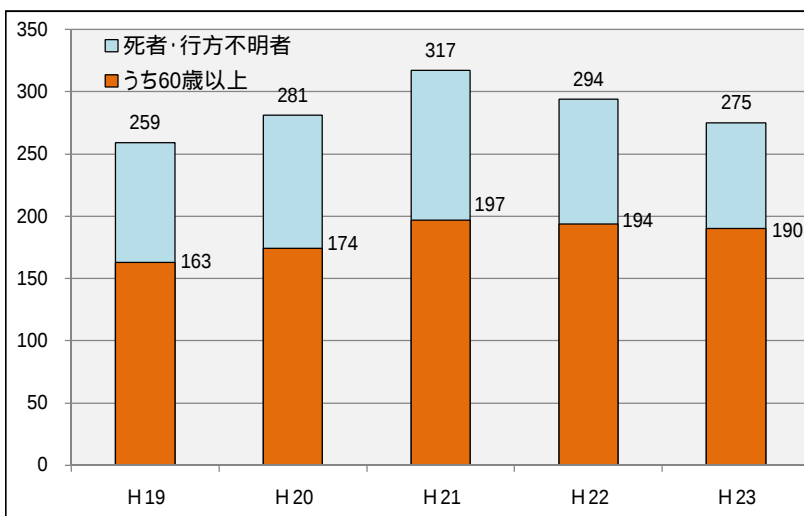


表5 都道府県別山岳遭難発生状況

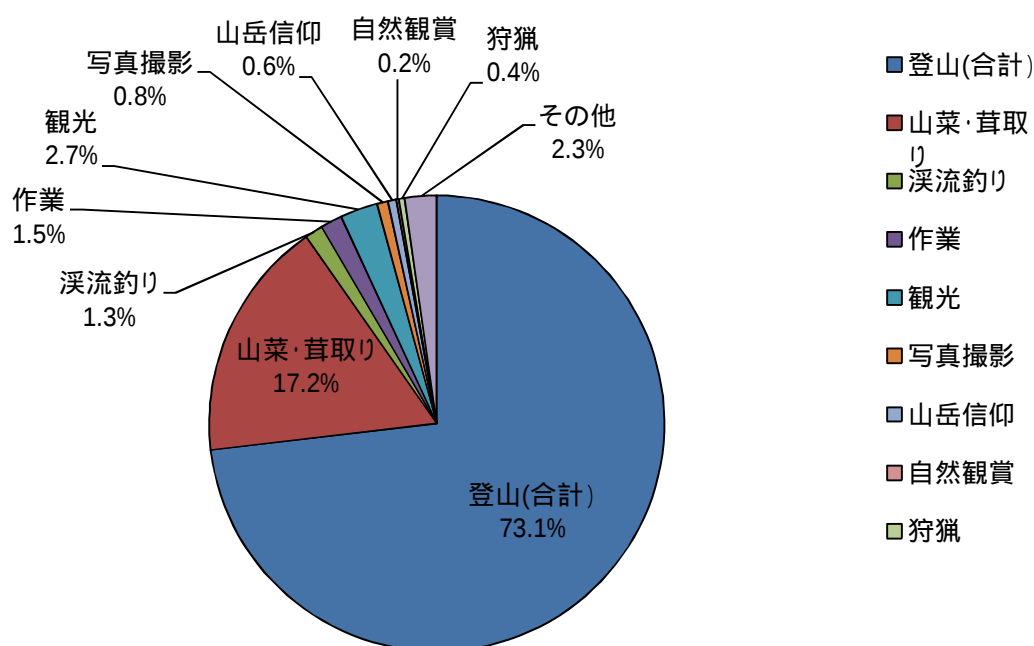
(平成23年中)

都道府県	発生件数	遭難者総数	死者	行方不明	負傷者	無事救出
北海道	138	148	13	4	33	98
青森県	67	74	7	3	15	49
岩手県	44	50	5	2	20	23
宮城県	16	20	0	0	4	16
秋田県	68	74	11	2	22	39
山形県	61	75	7	1	27	40
福島県	34	41	9	0	16	16
東京都	87	102	6	1	62	33
茨城県	2	2	1	0	0	1
栃木県	35	44	8	0	13	23
群馬県	74	85	12	0	35	38
埼玉県	39	52	2	0	25	25
千葉県	1	1	0	0	0	1
神奈川県	70	83	8	1	35	39
新潟県	92	113	18	1	46	48
山梨県	73	85	14	2	40	29
長野県	227	251	49	4	138	60
静岡県	79	89	6	5	30	48
富山県	116	132	18	2	65	47
石川県	25	26	2	0	12	12
福井県	7	12	0	0	5	7
岐阜県	85	101	9	0	35	57
愛知県	9	11	1	0	4	6
三重県	42	55	2	0	12	41
滋賀県	48	69	4	0	15	50
京都府	13	23	1	0	0	22
大阪府	14	15	2	0	10	3
兵庫県	84	100	10	0	40	50
奈良県	32	44	6	0	12	26
和歌山県	5	8	0	0	0	8
鳥取県	9	15	1	0	6	8
島根県	1	1	0	0	0	1
岡山県	4	4	3	0	1	0
広島県	11	11	2	0	2	7
山口県	3	5	1	0	2	2
徳島県	10	38	0	0	3	35
香川県	0	0	0	0	0	0
愛媛県	19	21	2	0	7	12
高知県	3	3	0	1	2	0
福岡県	11	19	1	0	1	17
佐賀県	7	11	0	0	2	9
長崎県	1	1	0	0	0	1
熊本県	11	16	1	0	2	13
大分県	27	40	1	0	7	32
宮崎県	8	14	1	1	3	9
鹿児島県	18	20	0	1	10	9
沖縄県	0	0	0	0	0	0
合計	1,830	2,204	244	31	819	1,110

表6 目的別山岳遭難者数

		平成23年		平成22年		増減	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	増減率
登山	登山	1,393	63.2%	1,386	57.8%	+ 7	0.5%
	ハイキング	101	4.6%	188	7.8%	- 87	-46.3%
	スキー登山	53	2.4%	63	2.6%	- 10	-15.9%
	沢登り	40	1.8%	34	1.4%	+ 6	17.6%
	岩登り	25	1.1%	22	0.9%	+ 3	13.6%
	登山(合計)	1,612	73.1%	1,693	70.7%	- 81	-4.8%
山菜・茸取り		378	17.2%	480	20.0%	- 102	-21.3%
渓流釣り		28	1.3%	30	1.3%	- 2	-6.7%
作業		34	1.5%	37	1.5%	- 3	-8.1%
観光		59	2.7%	66	2.8%	- 7	-10.6%
写真撮影		17	0.8%	12	0.5%	+ 5	41.7%
山岳信仰		13	0.6%	16	0.7%	- 3	-18.8%
自然観賞		4	0.2%	5	0.2%	- 1	-20.0%
狩猟		9	0.4%	8	0.3%	+ 1	12.5%
その他		50	2.3%	49	2.0%	+ 1	2.0%
合計(人)		2,204		2,396		- 192	-8.0%

平成23年 目的別山岳遭難者数の割合



目的別山岳遭難者数の比較(前年対比)

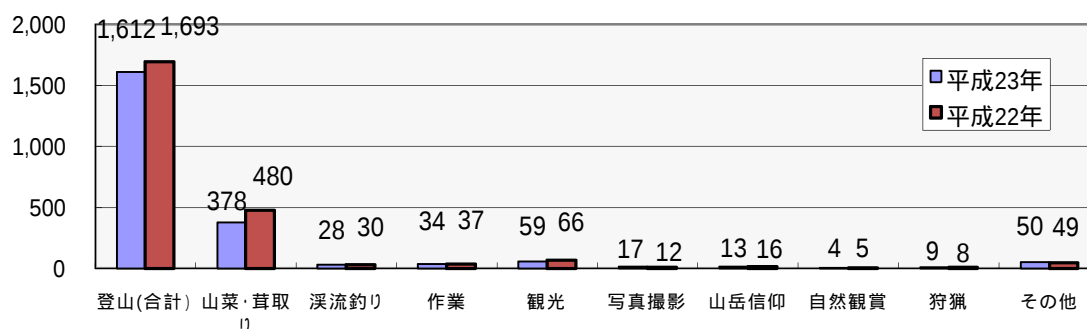
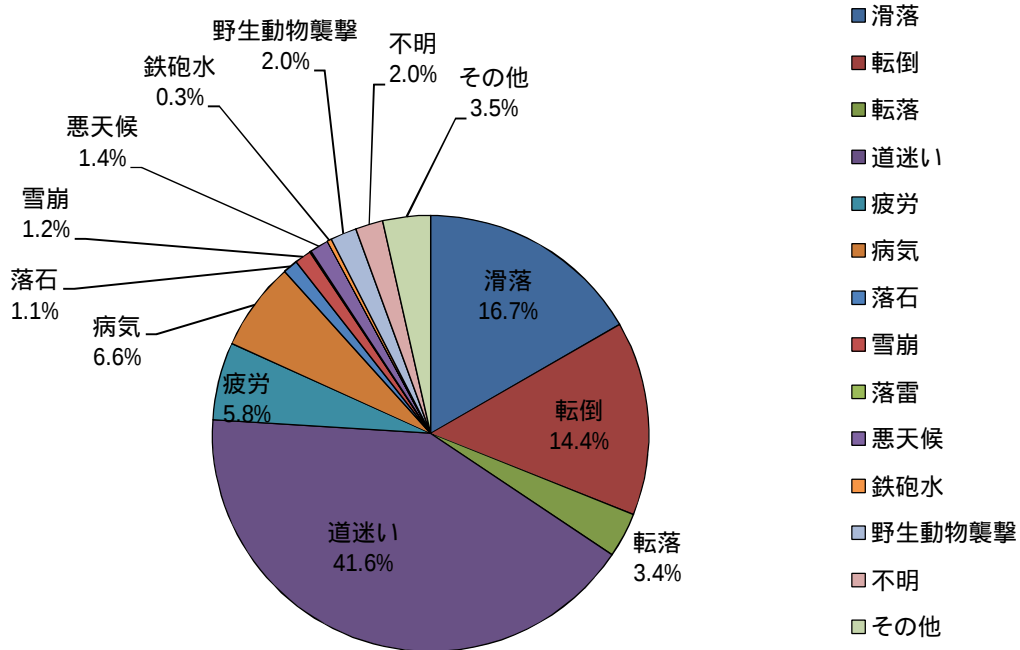


表7 態様別山岳遭難者数

		平成23年		平成22年		増減	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	増減率
滑	落	367	16.7%	402	16.8%	- 35	-8.7%
転	倒	317	14.4%	309	12.9%	+ 8	2.6%
転	落	74	3.4%	82	3.4%	- 8	-9.8%
道	迷い	917	41.6%	970	40.5%	- 53	-5.5%
疲	労	127	5.8%	149	6.2%	- 22	-14.8%
病	気	145	6.6%	155	6.5%	- 10	-6.5%
落	石	24	1.1%	25	1.0%	- 1	-4.0%
雪	崩	27	1.2%	13	0.5%	+ 14	107.7%
落	雷	2	0.1%	0	0.0%	+ 2	-
悪	天候	31	1.4%	36	1.5%	- 5	-13.9%
有	毒ガス	0	0.0%	4	0.2%	- 4	-
鉄	砲水	7	0.3%	4	0.2%	+ 3	75.0%
野	生動物襲撃	43	2.0%	56	2.3%	- 13	-23.2%
不	明	45	2.0%	52	2.2%	- 7	-13.5%
そ	の他	78	3.5%	139	5.8%	- 61	-43.9%
合	計	2,204		2,396		- 192	-8.0%

平成23年 態様別山岳遭難者数の割合



態様別山岳遭難者数の比較 (前年対比)

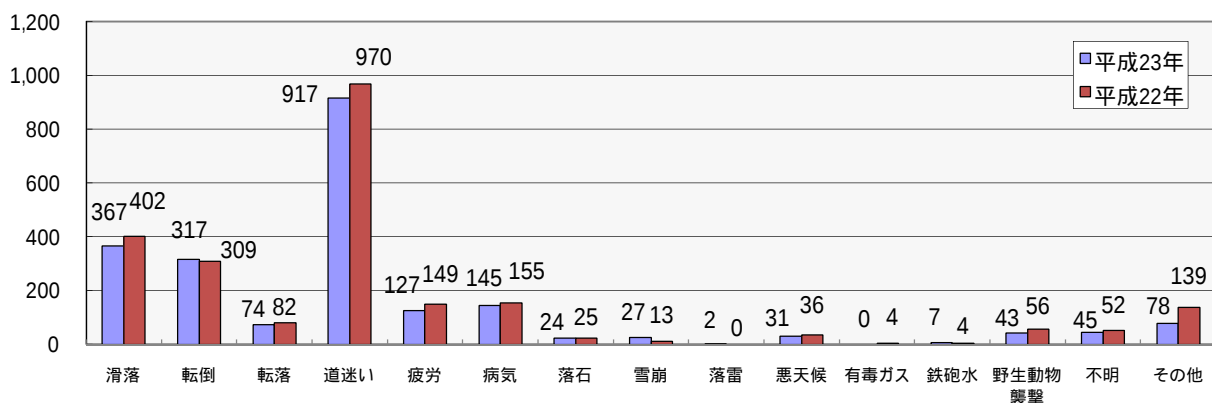
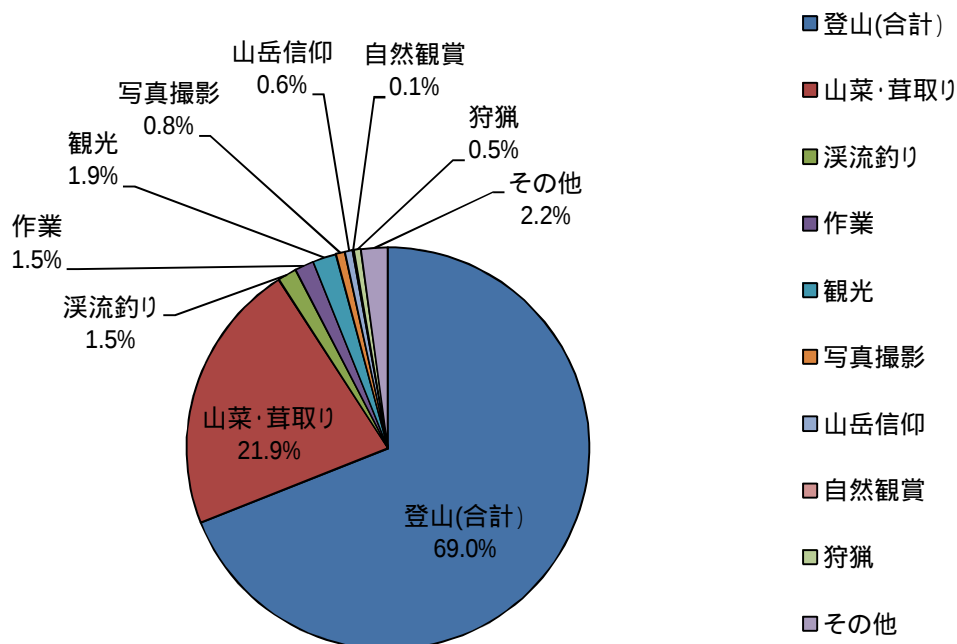


表8 目的別山岳遭難者数(中高年)

		平成23年		平成22年		増減	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	増減率
登山	登山	1,021	60.2%	1,022	56.1%	- 1	-0.1%
	ハイキング	77	4.5%	120	6.6%	- 43	-35.8%
	スキー登山	26	1.5%	32	1.8%	- 6	-18.8%
	沢登り	29	1.7%	18	1.0%	+ 11	61.1%
	岩登り	17	1.0%	14	0.8%	+ 3	21.4%
	登山(合計)	1,170	69.0%	1,206	66.2%	- 36	-3.0%
	山菜・茸取り	371	21.9%	458	25.2%	- 87	-19.0%
	溪流釣り	26	1.5%	28	1.5%	- 2	-7.1%
	作業	26	1.5%	29	1.6%	- 3	-10.3%
	観光	32	1.9%	34	1.9%	- 2	-5.9%
	写真撮影	13	0.8%	9	0.5%	+ 4	44.4%
	山岳信仰	10	0.6%	16	0.9%	- 6	-37.5%
	自然観賞	2	0.1%	3	0.2%	- 1	-33.3%
	狩猟	9	0.5%	8	0.4%	+ 1	12.5%
	その他	37	2.2%	30	1.6%	+ 7	23.3%
	合計(人)	1,696		1,821		- 125	-6.9%

注: 中高年とは、40歳以上の者を示す。

平成23年 目的別山岳遭難者数(中高年)の割合



目的別山岳遭難者数(中高年)の比較(前年対比)

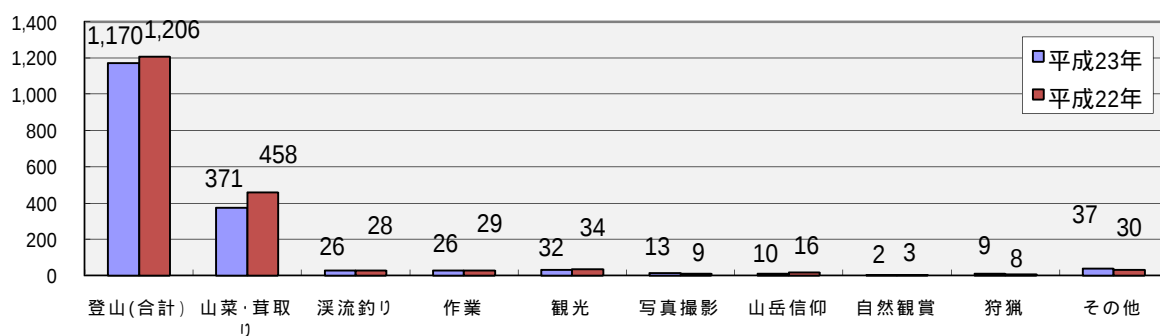
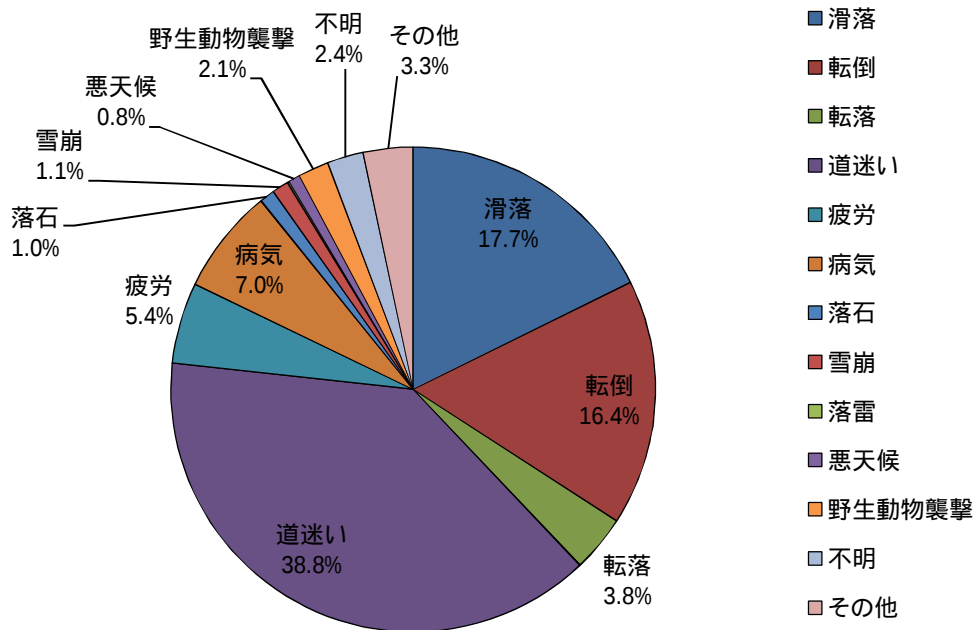


表9 態様別山岳遭難者数(中高年)

		平成23年		平成22年		増減	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	増減率
滑	落	300	17.7%	334	18.3%	- 34	-10.2%
転	倒	278	16.4%	264	14.5%	+ 14	5.3%
転	落	64	3.8%	72	4.0%	- 8	-11.1%
道	迷	657	38.8%	697	38.3%	- 40	-5.7%
疲	労	92	5.4%	118	6.5%	- 26	-22.0%
病	気	119	7.0%	128	7.0%	- 9	-7.0%
落	石	17	1.0%	15	0.8%	+ 2	13.3%
雪	崩	19	1.1%	5	0.3%	+ 14	280.0%
落	雷	2	0.1%	0	0.0%	+ 2	—
悪	天候	13	0.8%	18	1.0%	- 5	-27.8%
有	毒ガス	0	0.0%	1	0.1%	- 1	—
野	生動物襲撃	35	2.1%	44	2.4%	- 9	-20.5%
不	明	41	2.4%	43	2.4%	- 2	-4.7%
そ	の他	56	3.3%	82	4.5%	- 26	-31.7%
合	計	1,693		1,821		- 128	-7.0%

注：中高年とは、40歳以上の者を示す。

平成23年 態様別山岳遭難者数(中高年)の割合



態様別山岳遭難者数(中高年)の比較(前年対比)

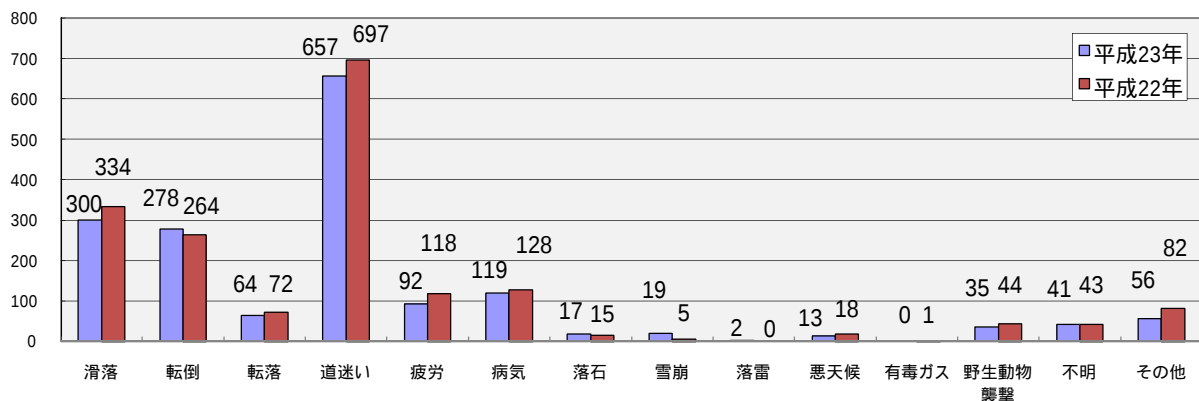


表10 年齢層別山岳遭難者数

		平成23年		平成22年		増減	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	増減率
15歳未満		52	2.4%	111	4.6%	- 59	-53.2%
15～19		29	1.3%	70	2.9%	- 41	-58.6%
20～24		85	3.9%	72	3.0%	+ 13	18.1%
25～29		96	4.4%	80	3.3%	+ 16	20.0%
30～34		123	5.6%	117	4.9%	+ 6	5.1%
35～39		123	5.6%	124	5.2%	- 1	-0.8%
中高年	40～44	112	5.1%	129	5.4%	- 17	-13.2%
	45～49	119	5.4%	125	5.2%	- 6	-4.8%
	50～54	164	7.4%	132	5.5%	+ 32	24.2%
	55～59	183	8.3%	237	9.9%	- 54	-22.8%
	60～64	325	14.7%	358	14.9%	- 33	-9.2%
	65～69	314	14.2%	348	14.5%	- 34	-9.8%
	70～74	239	10.8%	243	10.1%	- 4	-1.6%
	75～79	139	6.3%	149	6.2%	- 10	-6.7%
	80～84	69	3.1%	74	3.1%	- 5	-6.8%
	85～89	21	1.0%	20	0.8%	+ 1	5.0%
90歳以上		10	0.5%	6	0.3%	+ 4	66.7%
不明		1	0.0%	1	0.0%	± 0	0.0%
計(人)		2,204		2,396		- 192	-8.0%

注：中高年とは、40歳以上の者を示す。

平成23年 年齢層別山岳遭難者数の割合

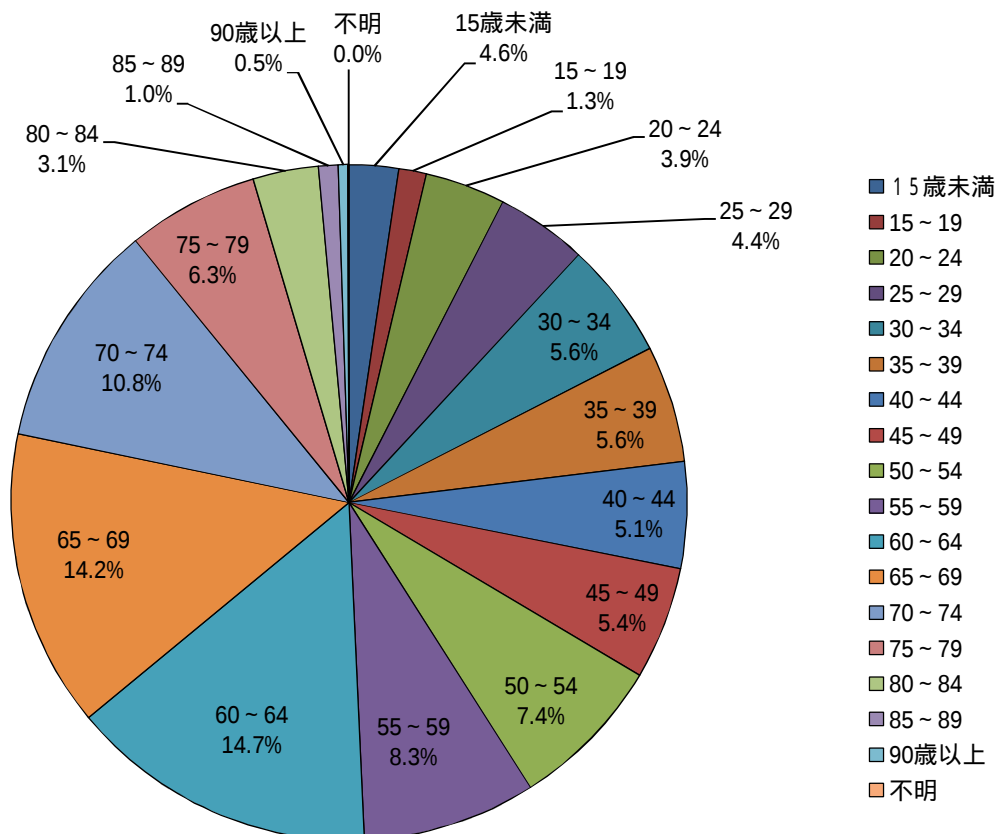
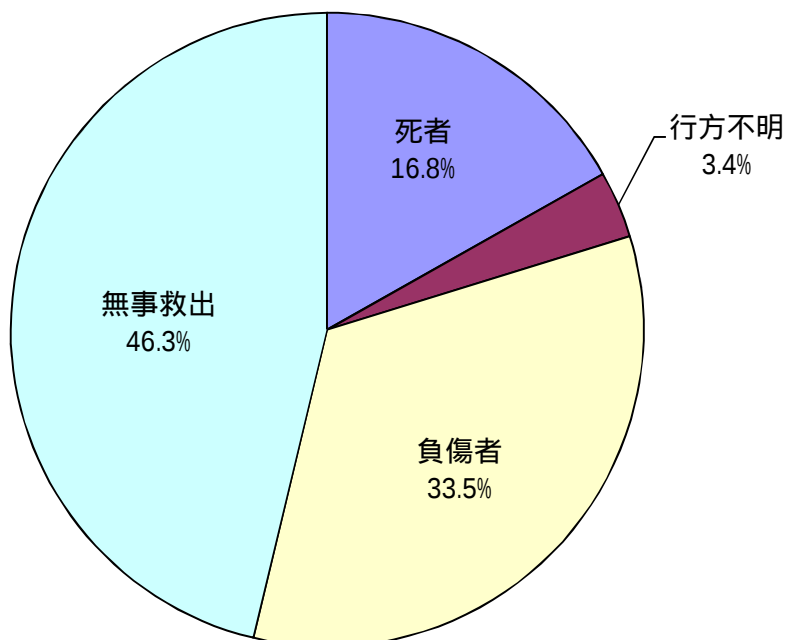


表11 単独登山者の山岳遭難発生状況(人員)

			平成23年		平成22年		増減	
			人数	構成比	人数	構成比	人数	増減率
遭難者	死者・不明者	死者	128	16.8%	141	17.9%	- 13	-9.2%
		行方不明者	26	3.4%	29	3.7%	- 3	-10.3%
		合計	154	20.2%	170	21.6%	- 16	-9.4%
	負傷者		255	33.5%	250	31.8%	+ 5	2.0%
	無事救出		352	46.3%	367	46.6%	- 15	-4.1%
	合計		761		787		- 26	-3.3%

平成23年 単独登山者の
遭難発生状況の割合



【参考】
平成23年 複数登山者の
遭難発生状況の割合

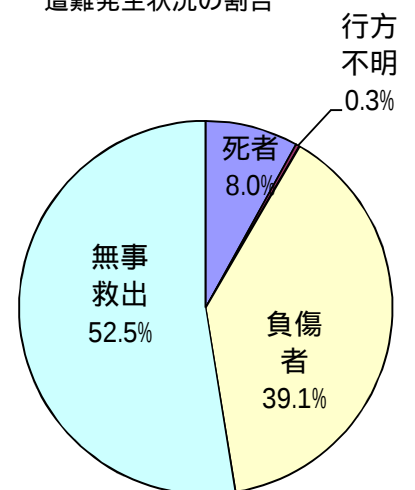
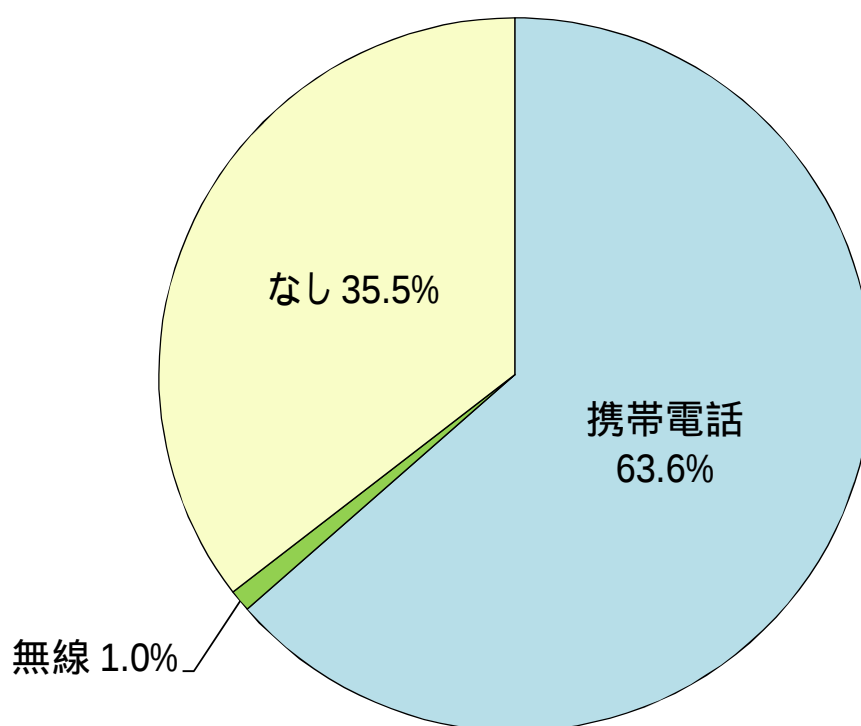


表12 遭難件数に占める通信手段の使用状況

		平成23年		平成22年		増減	
		総数	構成比	総数	構成比	総数	増減率
発生件数(件)		1,830		1,942		- 112	
使用	携帯電話(件)	1,163	63.6%	1,209	62.3%	- 46	-3.8%
	無線(件)	18	1.0%	20	1.0%	- 2	-10.0%
	合計(件)	1,181	64.5%	1,229	63.3%	- 48	-3.9%
未使用(件)		649	35.5%	713	36.7%	- 64	-9.0%

平成23年 通信手段の使用状況



携帯電話・無線機併用は、無線機に計上。